大社茉莉 「生きる」という選択

近年、未成年者が自殺することが多くなっている。私は、これについてネットで調べてみた。2019年版の「自殺対策白書」によると、自殺者の総数が２万人を超え、そのうち599人が未成年者であることが分かった。それに加え、年々、増えてきていることも分かった。コロナの影響もあるのかもしれないが、この人数は多いと私は思う。

私の身近な人が最近、自殺した。理由は誰もわからない。その時のその人の気持ちはその人にしかわからないからだ。私は、その人の突然の死に驚き、悲しみ、怒りがこみ上げた。怒りは、自分自身とその人にあったと思う。

私は、昔から自殺する人の感覚みたいなものが理解できない。自殺した人に何があったのか。なぜ、死を選ぶのか。きっと、たくさんの理由があるのだろう。いじめや未来への恐怖、自己嫌悪、社会的弱者だからという理由の人もいたと思う。これらの人の気持ちを想像することはできる。それでも私は、生きることを選ぶと思う。なぜなら、なによりも死の方が怖いと思うからだ。

生きることには、先人の経験からの言葉がある。しかし、死についてはどうだろう。死について書かれた書物はたくさんあるが、どれも証拠がなく信用に欠ける。つまり、死の世界は、未知の世界である。たしかに、生きていれば辛くて、くるしくて、死にたいと感じることもある。未来なんて誰にも分らなくて、怖いと感じるのも当然だ。でも、生きていれば楽しいことや嬉しいこと、幸せなこともある。

もしも、将来したいことが見つからないなら、見つけるために色んなことに挑戦すればいい。自分がわからないなら、他の人に聞いたり、自分探しの旅でもしてみればいい。なにか行動しなければ、何も見えてこないのは当たり前だ。人生は、きっと長い。死なない限り続く大冒険だと思う。生きているからこそ辛いと感じ、楽しいと笑い、おいしいとご飯を食べられる。生きているからこそ、できることはたくさんある。だから私は、生きたいと思う。

また、私達は生きなければならないとも思う。それは、「生きる」という選択のできない人がいるからだ。世の中には、戦争や病気で明日を迎えることができるかわからない人、明日を迎えられない人など私達のように、当たり前に明日を望めることができない人がたくさんいる。私の思うことは同情に近く、私は平和で健康的な生活をしているからこそ言えることなのかもしれない。けれど、このような人がいるということを私は忘れてはいけないと思う。生きたいのに生きられない人がいるなかで、私達のように平和で健康的な暮らしをしている人が死を選ぶのはどこか変で私は、納得できない。きっと私は、当事者にならない限り納得することはないだろう。

もし、平和で健康的な暮らしをしている人が自殺しようとしているなら、自殺した人と話ができるならその人たちに私は問いたい。その思い通りに動く手足を、その健康な臓器を、その平和な生活を、必要としている人にあげることはできないかと。答えはわかっている。そんなことはできない。臓器ならできるかもしれないが、その他は現実的ではない。それでも、私はどうしてもそのように感じてしまう。このことが全てできてしまったらどれだけの命が救われたのだろう。きっと、数え切れないほどの人が死なずに済んだのかもしれない。思いっきり走ったりできたのかもしれない。でも、これは理想で現実的に不可能だ。理想には都合のいいことしかないから。それでも、私はこの理想を「不可能」でおわらせたくない。この理想を実現できないからこそ、少しでも生きることを選ぶ未来あるものが増えるために私にできることを探している。

身近な人の自殺。それは、わたしに生きるということをもっと深く考えるきっかけをくれた。そして、私はより「生きたい」「生きてやる」という気持ちが強くなった。どんなに辛くて、苦しくて、死にたいと思っても私は絶対に、自ら死を選ばないと。それから、私は証明する。これから私の人生にどんな困難があったとしても、生き抜いて人生を思いっきり楽しんで、「生きる」という選択が正しかったということを。